



野市町



上岡八幡宮の碑(安政南海地震)

(表)

嘉永七年(安政元年のこと)十一月五日(旧暦)。大地震により地盤が沈み、この浦々の人家が流出した。大勢の人々が傷つき上岡山の西川原まで津波が押し寄せたことを記す。

明治十五年八月
上岡八幡宮の碑を建てる



▲上岡八幡宮入り口に碑はあります。このあたりの豪農、嶋内武金が建てました。境内からは物部川が近く近く眺めることができます。碑文では、地盤沈下があったことや吉川や赤岡のことでしょうか、浦々(港)では多くの人や家が流されたこと、上岡山の西の河原まで津波が入ったことが彫られています。

★「上岡八幡宮」位置図



赤岡町



西川屋「大変附」(安政南海地震)

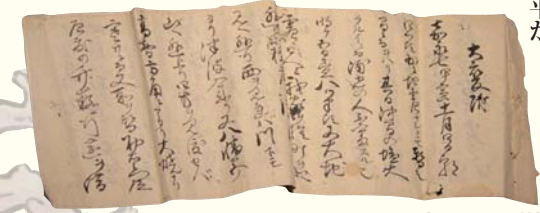
(裏)

当時の西川屋の主人、西川屋才平が書き記したものの(一部省略)

大変附
十一月四日(旧暦)朝
少々地震があつたがしばらくして収まる。

十一月五日(旧暦)昼
大地震。
家を捨て町を北へ逃れる。橋が落ちていたので川を渡り、高見へ逃れる。西を見れば門下より津波入来。
須留田八幡宮の山へ上がる。四方を見れば高知方面大焼け。初右衛門殿屋敷の竹藪にむしろを借りる。大勢集まる中で時々大地震。(中省略)
その後、収集した情報
手結浦は半分イタミ。
夜須横浜(新町)は家流失、人イタミも少々。
赤岡は無事、浜辺は西御蔵下(札所辺り)より東へ家二十軒ほど流れる。

★「西川屋」位置図



▲赤岡町の西川屋2階に展示されている(西川屋所蔵)

吉川町



増井はつこさんに
住吉神社に伝わる伝説を
お聞きしました
(安政南海地震)

(表)

「安政元年寅の年、天地を揺さぶる大地震と共に激しい稲妻が貫き、村に大津波が押し寄せた。人々は恐れおののき、われ先にと住吉神社へ。その時、一筋の光が光った。住吉大明神が御剣(みつるぎ)をもって、大津波を切り開いたのだ。」

雷の光が、御剣の輝きに見えたのでしょうか。押し寄せた津波が、目の前で真つ二つに裂けたと言われます。昔は「津波の後に家へもたら、便所のつぼで鯨が泳ぎよった」とか「嫁入り道具が、とつと野市まで流



▲吉川町 増井はつこさん

★「住吉神社」位置図



されていつちよた」とか。その家々に伝わる話があります。宝永の大津波、安政の大津波と昔から泣かされてきたようで、小さいころ、年寄りからよう聞かされました。津波の時には、『カワ、カワ』言い出して。この意味を知ったのは、昭和南海地震の時でした。川に気をつけよ、ということやっただけです。まっことあの時も、津波が来るいうたら、真つ先に川の水位が上がりましたから。



▲住吉神社を境に津波が分かれたと伝わる

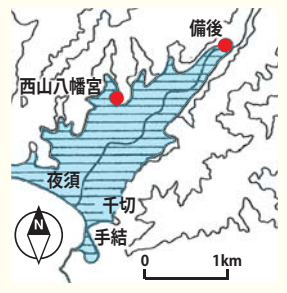
宝永地震津波浸水図

西日本最大規模の地震

間城龍男氏著書「南海地震」より抜粋して掲載(宝永地震)

夜須の津波

津波は、夜須の海岸付近の家屋をすべて流失した。1.4 km内陸の西山八幡宮の前の人家も流れている。津波は、小丘上の八幡宮の境内に侵入したが、少し高い社殿には達していない。従って、夜須での津波の高さは11〜12 mと推測できる。さらに奥地に進んだ津波は海岸から約3 km離れた海拔14〜15 mの備後の下にまで達していた。手結は、山上の家を除き他は流失。千切、横浜の家もすべて流失した。

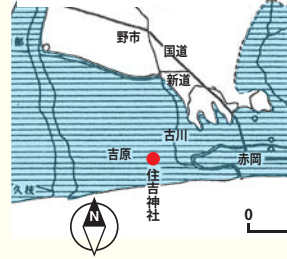


香南(夜須以外)の津波

岸本の家屋は全戸流出。赤岡の町は土地の低い本町の南側や西部の家は流失したが、本町の海拔は8〜8.5 mで中には10 m以上の小丘もあり、家屋は浸水をしたが流失はなかった。岸本や赤岡方面から北の田園に侵入した津波は、徳王子の若一王子宮の鳥居の元に達し、前面の田園は海のようにになったが、家屋は一段と高い所にあるほとんど浸水をしなかった。



▲沿岸部の集落のほとんどが津波に流された



著者:間城龍男氏(90歳)
高知地方気象台を退職後、古文書の記述をもとに南海地震を研究している。この本は防災対策課で閲覧できます。

先人の願い

今回、宝永安政時代に起こった津波災害の現地調査を行ったことですが、人というものは、自然の脅威に生死の間をさまようほどの酷い目に遭いながら、「喉もと過ぐれば」の例え通り、いつの間にか災害前の生活に戻るものだと痛感しました。
利便性の良い低地の生活に憧れ、ついつい高台での生活を放棄したのでしよう。東日本の災害地の人々も、今は高台での生活を求めているようですが、世代が変われば、また低地での生活に戻るような気がしてなりません。
先人たちが残した碑には、私たち世代への願いが込められています。過去を振り返り、南海地震の脅威を知り、覚悟を持って命を守る対策を考えなくてはなりません。

消防団の震災時対応を具体的にマニュアル化します。

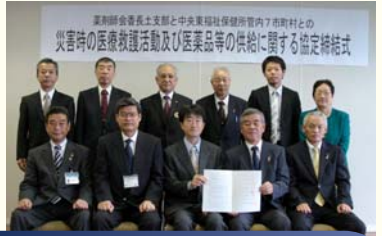
10月22日〜11月12日の期間に、香南市の各消防団・分団ごとに震災時の対応マニュアルについて説明会を開催しました。これは、多くの消防団員が犠牲になった東日本大震災の教訓から、具体的な行動マニュアルを作成し、意識の統一と団員の命を守るためのものです。マニュアルには、震度5強以上で全団員を招集するが、自分と家族の安全を最優先に守ることや、安全が確保でき次第、定められた集結場所へ集合するなどを明記。今後は、安全な集結場所や避難路の選定、無線機などの装備品の配備を急ぎ進めていきます。



問い合わせ
消防本部 ☎ 55-4141

災害時の薬の調達と薬剤師の派遣に関する協定を締結しました。

11月4日(金)のいちふれあいセンターで「災害時の医療救護活動及び医薬品の供給に関する協定」の締結式が行われ、県薬剤師会香長土支部と7市町村(香南市、香美市、南国市、嶺北4町村)が締結しました。
これは、大規模災害発生時に、市が設置する医療救護所などへ協定を締結した薬局(49店舗)が、薬剤師の派遣や医薬品の提供を行うものです。
この協定を始まりとし、必要な医薬品や、薬剤師が集結する避難所の選定などを進めていきます。また、お互いの顔が見える信頼関係を作っていくため勉強会や合同訓練などを行う予定です。



問い合わせ
健康対策課 ☎ 57-7516